

吉村 信之（よしむら のぶゆき）

1. 学歴、学位

1993年 東京外国語大学外国語学部日本語学科卒業

1999年 東京大学大学院経済学研究科第二種博士課程(理論経済学・経済史学専攻) 単位取得退学
経済学修士(東京大学)

2. 職歴・研究歴

1999年 東京大学助手大学院経済学研究科・経済学部

2000年 信州大学講師経済学部

2004年 信州大学助教授経済学部

2003-2004年 専修大学非常勤講師経済学部

3. 参加学会

経済理論学会

4. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

資本主義経済の基礎理論（経済原論）、経済史、景気循環論

(b) 大学院

なし

B. 講義及びゼミナールの指導方針

理論・歴史的内容を、なるべく分かりやすく講義し、それに基づいてゼミナールを指導する。

5. 研究分野及び研究テーマ

資本主義経済の原理的研究、現代資本主義の歴史的分析、『資本論』形成史研究

6. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著、論文

- ・ 「為替論の回顧と展望」『信州大学経済学論集』第53号、2005年、99 - 113頁
- ・ 「貨幣取扱業務の再検討 信用と恐慌をめぐって」、『季刊経済理論』第41巻4号、2005年、78 - 89頁
- ・ 「郵政民営化と金融排除 金融の自由化・グローバル化に関連して」日本郵政公社郵便貯金委託研究、2005年、1 - 27頁
- ・ 「世界貨幣と国際通貨 ドル本位制の歴史的位相」、SGCIME編『マルクス経済学の現代的課題 金融システムの変容と危機』御茶の水書房、2004年、135 - 165頁
- ・ 「中央銀行の生成と国内金流出の位相 19世紀イギリスの発券集中によせて」、『信州大学経済学論集』第51号、2004年、1 - 32頁
- ・ 「『金本位制のゲームのルール』と19世紀イギリスの循環性恐慌 その理論的意義」、『信州大学経済学論集』第50号、2003年、1 - 35頁
- ・ 「信用恐慌論の方法と課題」、SGCIME編『マルクス経済学の現代的課題 資本主義原理像の再構築』御茶の水書房、2003年、305 - 333頁
- ・ 「為替と恐慌」、小幡道昭編『貨幣・信用論の新展開』、社会評論社、1999年、pp.233-277頁
- ・ 「物神性と原理論の方法 いわゆる『利子生み資本』に関連して」、東京大学『経済学研究』第41号、1999年、41-57頁
- ・ 「発展段階論におけるマルクス経済学の新たな胎動」、『月刊フォーラム』1997年5月、102 - 111頁

(b) その他

(辞書執筆)

- ・ 『岩波 現代経済学事典』岩波書店、2004年

(翻訳)

- ・ コスタス・ラパピツァス「市場立脚型金融システムと銀行立脚型金融システム そのルーツを学説史のなかにたどる」、野口真・平川均・佐野誠編『反グローバリズムの開発経済学』、日本評論社、2003年、209 - 231頁
- ・ コスタス・ラパピツァス「金融不安定性と日本資本主義」、伊藤誠編『現代資本主義のダイナミズム』、御茶の水書房、1999年、pp.171-194
- ・ コスタス・ラパピツァス「日本の金融不安定性」、『経済と社会』第8号、時潮社、1997年、43-59頁

B . 学会等を通じた研究活動及びその他研究活動

(a) 国内外学会等での発表

2004 年度 経済理論学会全国大会 貨幣金融分科会報告 ; 「貨幣取扱資本の再検討」

7 . 地域・社会貢献

2002-2004 年 大学入試センター委員

(2005 年 10 月現在)